

(資料 2 0) 平成 1 5 年度の省エネ対策について

平成 1 5 年 6 月

研究所の平成14年度エネルギー消費量が12年度比・床面積当たり 3 %の増加になったこと、特に今夏は広域的な電力不足も予想されること等を踏まえ、平成 1 5 年度は、次のように省エネ対策を推進することとする。

1 . 大型施設等の計画的運転停止

各ユニット等の協力を得て、大型施設等の計画的運転停止を〔別紙 1 〕のとおり実施する。

なお、各棟・施設の自主的判断による追加的措置の実施を期待する。

2 . 冷暖房の合理化

今年度の冷暖房は、次の方針により合理化を図る。ただし、電力供給不足の緊急時の対応は下記 3 . による。

2 - 1 夏季の冷房

(1) 冷房実施の目標

夏季の冷房は、午前 8 時～午後 8 時の間、室温を 2 8 に維持することを目標とする。

(2) エネセン及び各棟の取組

上記の冷房目標を達成するため、エネルギーセンター（エネセン）において空調機の運転を行うとともに、各棟ごとにファンコイルユニット（F C U）の管理を次のように行う。

各室で F C U の温度設定ができる棟〔別紙 2、* 1 欄の 9 棟〕では、設定温度を必ず 2 8 にする。また、午後 8 時（それ以前に職員が退所する場合は退所時）～午前 8 時の間は、各室の職員が F C U のスイッチを切るようにする。

エネセンが F C U の電源管理をしている棟（ 以外の 1 9 棟）では、エネセンが各棟の室温を監視しつつ、電源操作を行う。

2 - 2 冬季の暖房

(1) 暖房実施の目標

冬季の暖房は、午前 8 時～午後 8 時の間、室温を 1 9 に維持することを目標とする。

(2) エネセン及び各棟の取組

上記の暖房目標を達成するため、2 - 1 (2) に準じて取組を行う。

2 - 3 冷暖房に関する総務部の配慮

通常の勤務時間内に室温が目標温度を満たせない場合は、施設課・共通施設係（内線 2 3 2 8）で指摘・苦情を受け付け、可能な範囲で、対応に努める。

実験業務が深夜に及ぶなど特別の必要がある場合には、その業務の代表者の申し出により、冷暖房時間の配慮を行う。

恒温室など特殊空調系の施設は、従来どおりの室温管理とする。

3. 電力不足への対応

今夏の電力高需要時における電力不足問題に対応するため、1) 7～9月は、消費電力を常に5,000KW（契約電力）以下に抑えること、2) 電力不足の緊急時には、更に500KW（契約電力の10%）削減し、4,500KW以下に抑えることを目標に、以下の対策を行う。

(1) 消費電力を常に5,000KW以下に抑えるため、

大型施設等の計画的運転停止を、前記1.により実施。

* (2)の緊急時に備え、研究機器の稼働を極力13～17時から他の時間帯に変更することを推奨する。

夏季冷房の合理化（目標 2 8）を、2 - 1により実施。

全職員のパソコンは省エネモードに設定し、使わない時はこまめに電源を切る。

昼間の執務室照明は2 / 3以下、廊下等は1 / 3以下に。

なお、消費電力が5,000KWを超えた日は、その旨をイントラ等で所内に周知し、節電協力を呼びかける。

(2) 電力不足の緊急時には、4,500KW以下に抑えるため、

電力会社からの連絡により、速やかに所内放送により「強力節電」を呼びかけ、業務上不可欠でない研究機器、パソコンは停止。

執務室の照明は1 / 3以下に。

エレベータは使用しない。

恒温室など特殊空調系を除き空調機を停止、更に必要があればファンコイルユニットを停止。

4. その他の取組

(1) 所内エネルギー情報の公表

所の毎月のエネルギー消費状況を把握し、ユニット長会議・運営協議会に報告する等、各棟・施設での自主的・積極的な省エネ努力を呼びかける。

(2) 更なる省エネ対策の検討など

昨年改定の省エネ計画で認められた省エネ装置の導入、冷温熱源流量計・積算電力計の設置を進め、できるだけ早期に省エネ診断を受ける。

これらの結果も踏まえつつ、更なる省エネ対策の検討を行う。

(別紙 1)

平成 1 5 年度大型施設等の省エネ停止計画

平成 1 5 年 5 月 3 0 日現在

施設名	停止計画の内容	容量(KW)
動物 ・ 棟	A M系チャンバー (4 台) の廃止	50.00
	低温室の停止 (通年)	5.00
環境保健研究棟	無響室の空調停止 (通年)	2.20
生物環境調節実験施設	ガス曝露チャンバーの停止 (7/22 ~ 8/24)	50.00
	材料提供温室の停止 (1 2 月中 ~ 1 月中)	10.00
生態系実験施設	自然環境シミュレーターの休止 (通年)	100.00
	人工光室 (1 室停止 : 7 / 中旬 ~ 8 / 末)	
生態系研究フィールド ・	育苗チャンバーの停止 (通年)	10.00
水生生物棟	淡水マイクロコズムの休止	20.00
水質水理棟	海水マイクロコズムの停止 (8 ~ 9 月)	30.00
土壌環境実験棟	ライシメーター 1 台の空調停止 (4 ~ 5 月、11 ~ 3 月)	10.00
エアロゾルチャンバー	エアロゾルチャンバーの停止 (7/15 ~ 9/15)	23.00
大気拡散実験棟	1 週間程度の停止を 6 ~ 8 回実施 (6 ~ 1 0 月)	150.00
	平日の週 1 日停止 (1 2 ~ 3 月)	
大気化学実験棟	年間を通じて 2 ヶ月程度の停止 空調時間の短縮	15.00
大気共同実験棟	空調時間の短縮	10.00
研究 棟	スーパーコンピュータの停止 (6/30 ~ 7/10)	250.00
高度化学計測施設	F T - M S の停止 (空調 : 7 ~ 9 月停止)	5.50
研究 棟		
環境ホルモン実験棟	クリーンルームの停止 (8/1 ~ 9/16)	10.00
循環・廃棄物研究棟	熱処理プラントの停止 (7/1 ~ 8/31 間の 4 週間)	50.00
	乳酸発酵・回収装置の停止 (7/7 ~ 8/24)	40.00
R I ・ 遺伝子工学実験棟	R I 棟 : 夜間・休日の空調・給排気の停止	4.00
地球温暖化研究棟	F T - I R 装置 : 土・日・祭日の観測停止	
	生態系パラメータ : 全キャビネット停止 (8/9 ~ 9/7)	120.00
	その他、照明時間の変更により電力需要ピークを回避	
低公害車実験施設	実験施設の全面停止 (8 月)	
	土・日・祝日及び夜の停止 (通年)	
共同利用棟	電算機資料室空調の停止 (通年)	5.00
	実験制御室の空調温度の設定変更 (2 3 以下 → 3 0 以下)	5.00

〔別紙２〕

各棟におけるファンコイルユニットの管理状況

棟 名	室温管理 ¹	ファン電源管理 ²	エネセン温度計測室 ³	備 考
地球温暖化棟	○		各室	
循環・廃棄物棟	○		-	
環境生物保存棟	○		-	
系統微生物棟		○	1F 管理室	
土壌棟	○		-	
大気汚染質棟		○	6F 大気物理実験室	
大気化学棟		○	1F 大気反応実験室	
大気拡散風洞棟		○	2F データ処理室	
大気共同棟		○	2F 物理系校正室	
計測棟		○	1F 計測研究管理室	
研究１棟		○	3F 酸性雨研究室	
情報棟		○	2F 施設課	
厚生棟		○	2F 電話交換室	
管理棟		○	1F 会計課	
研究２棟		○	1F 144室	
研究２棟		○	2F 病体機構研究室	
共同利用棟		○	1F 情報業務室	
共同利用棟		○	2F セミナー研究室	
共同研究棟	○	○	2F 社会環境システム室	
中動物棟		○	1F 131室	
動物 棟	○	○	-	
動物 棟		○	2F 遺伝資源研究室	
植物１棟	○	○	1F 管理室	
植物２棟		○	1F 管理室	
水生生物棟	○	○	1F 管理室	
R I 棟		○	1F 管理室	
遺伝子工学棟		○	1F 微生物遺伝子組換え室	
環境ホルモン棟	○		各室	

１ 各室にサーモが設置されており、室単位で温度設定が可能。ファンコイルは室温に応じ発停する。

２ エネセンセンターで設定した時刻にファンコイルの電源を入切することが出来る。

３ エネセンセンターが室温の測定を行っている。ただし、ファンコイルの発停には連動していない。

注) ファンコイルの温水供給は、特別の実験室を除き、夜間は停止される。